

天然資源の開発利用に関する日米会議、水産増養殖部会、第2回合同会議

共 同 声 明

天然資源の開発利用に関する日米会議の水産増養殖部会第2回合同会議は、昭和47年10月16日、米国首府ワシントン、10月27日、ワシントン州シアトル市において開催された。会議は仮議長ウィリアム・ショウ氏によつて開会し、UJNR米国調整担当官ジェームス・スレーター博士の代理の挨拶に次いで、米国海洋気象庁海洋資源副管理官代理ドナルド・マルティニ博士の挨拶があつた。この後、古川厚博士とウィリアム・ショウ氏がこの会議の議長に選出され、議事が進行した。

この会議において、日米部会員より、両国の水産増養殖の現状に関する総合的な報告が行なわれた。これらの報告は10月17日から26日にわたつて行なわれた現地視察旅行期間中を通じて行なわれた詳細な討論に大変役立つものであつた。

この会議において、研究者の交流と文献の交換の計画について具体化の話し合いを行なつた。研究者の交換と共同研究課題の調整は本会議終了後数ヶ月以内に行なわれるであろう。第1回合同会議で計画された文献交換は開始されており、第1回の研究者の交換は昭和47年に始められた。今後の計画は両国の研究者の事情を配慮しながら、共同プログラムによつて推進されよう。

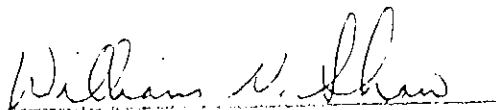
昭和46年東京に於いて交換した水産増養殖の当面する現状と問題点に関する知見については、この会議において論議された。すなわち、両国相互に関係深い問題は水産生物の病理と栄養であり出来るだけ早い機会に共同研究課題として取りあげる必要がある。

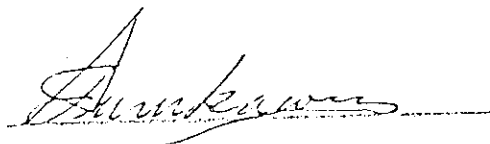
日米両国部会にとつて、中期在外研修として菅野尚氏が在米したように、水産増養殖専門家が長期に相手国に滞在することは極めて有意義であり、今後もその態勢を持続する必要がある。

次回の水産増養殖部会合同会議は、昭和48年の後半に日本において行なわれる予定である。

昭和47年10月27日

於 ワシントン州シアトル市


William V. Shaw


Donald Martini